

タイ・マレーシア・シンガポール・ベトナム・ラオス・カンボジア・インドネシア・フィリピン
アジアでのコーディネーション 撮影技術

2nd Fl. K Blgs 22 Soi 35 Sukhumvit Rd. BANGKOK THAILAND Tel : +66-2-260-9119
e-mail: bkk@gpa.jp <http://www.gpa.jp/> 発行責任 築山政雄

最近時は折降るスコール、厚い雲が立ちこめる日などもあり、そろそろ雨季がやって来
そうな気配ががしています。

こんな中、現在タイで撮影中の「ランボー」続編、主演のスタローンも年老いた体にむ
ち打って、蒸し暑いタイで撮影中です。撮影は好調のようです。

私が先日行ったタイ南部ピーピー島は好天で海も静か、すべての色が綺麗に映えそれは
本当に美しいという言葉がピッタリの場所でした。行ったのは島の反対側、つまり観光客
がほとんど来ない場所でした。コテージに宿泊（ちょっとシャワーが塩味でしたが、許
容範囲でした）眼に見えるのは「白い雲」「砂浜」「青い海」聞こえる音は静かな「波の
音」とかすかな「虫の声」、

バンコクの都会に住む私としては、この場所は何事も忘れて「無心」になり、心身とも
にリラックス出来る天国なのです。普段は仕事に追われる日々ですが、たまにこういう時
間を作る事の大事さを痛感すると共に、こういう時間が次へのやる気を生むという実感も
持ちました。

最近の仕事はスケジュールがタイトでちょっと無理がある感があります。それを一番感
じているのは、「ニュースレター」を読んで頂いている皆様ではないかと思いますが、
たまには「無心」になれる時間を作るのも良いかもしれません。心身とも蘇りますよ
！

私が行った場所で良ければいつでもご紹介しますのでお気軽にお問い合わせ下さい。

さて、仕事頑張るぞ！！

Kazu / ohara@gpa.jp



動物&サイエンス編

1、幻の鳥

3月6日、139年前にインド北部で確認されたのを最後に、その後絶滅したとみられていた幻の鳥「オオハシヨシキリ (Large-billed Reed Warbler)」が中部ペップリ県の湿地でみつかったことが明らかにされ、世界の鳥類学者を驚かせた。昨年3月にマヒドン大学の研究者であるフィリップ・ラウンド氏が捕獲、記録を取って放したが、その後採取した羽のDNA鑑定を行ったところ、オオハシヨシキリであることが確認された。



2、人工授精でゾウの赤ちゃん誕生

北部ラムパン県のゾウ保護センターで3月7日、アジアで初めて人工授精によるゾウの赤ちゃんが誕生した。生まれたのは体高90センチ・体重100キロのアジアゾウのオス。2005年6月、25歳の母ゾウに大型チューブを使った人工授精が行われていた。この母ゾウは過去に生まれたばかりの子ゾウを死なせたことがあるため、今後は10人の獣医が24時間体制で監視を続けていく。



3、コアラの赤ちゃん誕生、パンダは不調

4月17日、チェンマイ動物園で飼育されているメスのコアラ“ココ”に早くも赤ちゃんが生まれたことが明らかになった。今はまだ袋の中に子供がいることが確認できるだけで、オスかメスかは不明。数カ月後に袋の外に顔を出すという。“ココ”は昨年11月、他のオス2匹、メス1匹とともにオーストラリアのタロンガ動物園からゾウとの交換でチェンマイに移住してきた。タイについて間もなく妊娠していたことになる。



チェンマイ動物園では4年前に中国からやってきたパンダのカップル、シュアンシュアンとリンファイのベビー誕生にも期待がかかっているが、こちらは交尾ビデオを見せるなど職員の懸命な努力にもかかわらず妊娠の兆候はなし。4月2日、薬で眠らせたリンファイにシュアンシュアンの精子を注入するという人工授精が行われている。



4、高級ジャスミン米の二期作に成功

4月10日、北部チェンマイ県に住む農家、サマーンさんが、ジャスミン米の最高級品種「105」の二期作に成功したことが明らかになった。「105」はジャスミン米の中でもっとも香りが強く、世界各国に輸出されているが、乾燥地での栽培が向いているという特性のため二期作は不可能とされていた。ジャスミン米には、パトゥムタニ1など「105」に比べると香りは劣るが収量の多い(二期作の可能な)品種がある。輸出用の「105」の中にパトゥムタニ1が混入してその信用を落とすという問題も懸念されており、「105」の二期作が可能になればタイのジャスミン米事情は大きく変わることになる。



5、シャム双生児、分離に成功

国立シリラート病院の医師団は4月5日、胸から腹部にかけて結合した8カ月女児の双子、パンタワンちゃんとパンワートちゃんとの分離手術に成功したと発表した。2人は心臓の一部を共有していた上、肝臓も結合しており、この状態から分離に成功したのは世界初だという。妹にあたるパンワートちゃんは心臓の形が不完全なため、今後さらに追加の手術を行う必要がある。分離手術は61人の手術チームが12時間をかけて行った。



6、ゾウの日

3月13日はタイのゾウの日。何かとゾウと縁の深いこの国では、全国各地でゾウに対する感謝祭が行われる。北部チェンマイ県は丸いお膳に様々な料理が並ぶカントークディナーで有名だが、この日はゾウたちにごうせいなカントーク料理がふるまわれた。バナナやサトウキビなど、野菜とフルーツをふんだんに使ったカントーク料理を数十頭のゾウが並んでたいらげる姿はなかなか壮観だ。



社会編

7、交通安全と御利益の飴

タイでは毎年、水掛け祭り（ソクラーン）の帰省・Uターンラッシュの際に交通事故が多発する。飲酒によるものがほとんどだが、休み疲れのせいでうとうとと居眠り運転して事故を起こすドライバーも多い。そこで国道警察が考え出したのが眠気ざましの飴。あまりの酸っぱさに眠気が吹き飛ぶというものだ。そんなもの日本にも売っていそうだがそこはタイ。この飴はただ酸っぱいだけではない。2999人の僧侶が交通安全祈願の念を吹き込んだとされ、なめれば事故が起きないばかりか、空き袋を祀っておけば御利益があるという優れものである。

この飴はソクラーン休みの前に各地で配られたという。それで交通事故が減ったかという、4月11～17日では死者こそ375人から361人に微減したものの、交通事故件数はわずかに増えたとかで、あまり役には立たなかったようだ。



8、おかまとゴールイン

世界のおかまコンテストで幾多の賞を総なめにしているタイのおかまたち。タイで半端じゃない美女をみかけたら、それは十中八九おかまだと思っていい。ひとたびオカマを知ると、もう並みの女では満足できなくなるともいう。フランス人のミシェル・ラウエルさん（41）もその一人。彼はおかまのポンプラシットさん（25）と恋に落ち、クリスマスイブならぬソクラーンイブの4月12日、東北部サケオ県のサイトン村で結婚式を挙げて300人の村人から祝福を受けた。

